

令和4年度三重県の市町民経済計算のポイント

令和4年度三重県民経済計算の結果を基に、各種の統計数値を基準にした「按分方式」により市町や地域における総生産及び市町民所得の「推計」を行いました。

【推計結果の概要】

1 市町内総生産及び市町民所得の上位5市町

- 市町内総生産は、四日市市が1兆9,243億円で県内1位となり、次いで津市(1兆2,676億円)、鈴鹿市(8,475億円)、伊賀市(5,748億円)、松阪市(5,742億円)の順となりました。
- 市町内総生産の対前年度増加率は県内17市町でプラスとなり、木曽岬町では建設業などが増加したことから、24.3%増と最も高い増加率となりました。
- 一人当たり市町民所得は、いなべ市(382万9千円)が、2年連続で県内順位1位となりました。また、いなべ市を含めた計10市町で、一人当たり県民所得(322万7千円)を上回りました。

(図表1)

順位	市町内総生産 市町	(億円)	対前年度増加率 市町	(%)	一人当たり市町民所得 市町	(千円)
1	四日市市	19,243	木曽岬町	24.3	いなべ市	3,829
2	津市	12,676	東員町	15.4	四日市市	3,710
3	鈴鹿市	8,475	亀山市	11.8	川越町	3,557
4	伊賀市	5,748	朝日町	7.7	朝日町	3,477
5	松阪市	5,742	玉城町	5.0	桑名市	3,417

※本書において、総生産の対前年度増加率は、名目値(時価による表示)の「経済成長率」を表しています。
※本書において、一人当たり市町民所得は、企業の所得などを含んだ市町民経済全体の所得水準を表すものであり、住民個人の所得や賃金水準を表すものではありません。

2 地域別市町内総生産

- 地域別市町内総生産では、中南勢、伊勢志摩、東紀州地域で前年度から増加しました。
- 東紀州地域では、林業などが増加したことから、1.7%増と最も高い増加率となりました。

(図表2)

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
地域別市町内総生産(億円)	46,683	19,980	8,151	8,082	2,010
対前年度増加率(%)	▲ 0.7	0.8	1.6	▲ 0.5	1.7

※総生産は、輸入品に課される税・関税等を含みます。

3 地域別一人当たり市町民所得

- 地域別一人当たり市町民所得では、北勢地域(348万3千円)が一人当たり県民所得(322万7千円)を上回りました。

(図表3)

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
地域別市町民所得(億円)	28,779	14,872	6,151	4,816	1,593
一人当たり市町民所得(千円)	3,483	3,153	2,782	2,987	2,554
一人当たり市町民所得(全県=100)	107.9	97.7	86.2	92.6	79.1

※(分配)所得=雇用者報酬+財産所得(非企業部門)+企業所得
※一人当たり市町民所得=市町民所得÷市町民人口

注1)各計数は、県民経済計算の結果を按分したものであり、積上計算によるものではありません。
注2)表中の数値は、単位未満を四捨五入したものであり、県全体の総数と地域別の合計とが異なる場合があります。
注3)本書において、単に財産所得というときは非企業部門の財産所得を指しています。